

京浜東北線「日本人バンダ飼育 本場中国で奮闘中」などはよく再生されました。最近のイチ押しは、14日に連載1500回を迎えた「サンデー版大図解シリーズ」作成の流れをまとめ



東京新聞の本「傑作エッセイ」を手づかみで紹介する動画「ちよこと読んで！見て！」の一場面。YouTube「東京新聞チャンネル」から

Webで読まれた記事ランキング (2021年2月)

- 千葉 繁殖容易、害虫となる恐れ (1日)
- 全国の感染者数と最新情報 (毎日更新)
- 読視発言は「そんなこと」 (8日)
- 10都府県で3月7日まで (2日)
- 費94%を3社に再委託 (20日)
- 組、組織委幹部らの慰留で翻意 (9日)
- 別性、ほぼ無症状で健康確認終了後に自宅で死亡 (16日)
- 積極的疫学調査」縮小したから？ 専門家は「無関係」 (7日)
- 者、怒りに震える」リコールで署名の8割不正の疑い (2日)
- と暴行容疑で逮捕 妻の足股る (6日)



テーマ=2020こんな年だった
＜パンダが距離を守ります！＞
森脇 晃 (東京都江東区)

*写真上へ投稿「写心」は今日で終了です。そのついでに「おきき」も

文春砲が続く。芸能不祥だけではなく、政治家も官僚もターゲットだ。特徴は潜伏取材による決定的瞬間を写真や録音で「証拠」として押さえることで、ほとんどは盗撮・盗撮によるものでもある。もちろん、雑誌の専売特許ではなく、テレビも容疑者の容姿を隠し撮りし、逮捕段階で報じることがあるし、毎日新聞は自宅庭の田中角栄元首相を空撮し、一九八六年度の新聞

日々論々

視点

見張り塔から
メディアの今

専修大教授・山田健太さん



続く文春砲

潜入取材はどこまで許されるのか

されるのか。こうした取材行為は倫理上の問題に加え、訴訟に発展するともあり、特定秘密保護法では不当な行為で罰せられることになった。かつては「取材方法に制約なし」とされていたが、メディアを見る目の厳しさや、一般的な人権意識の高まりの中で、許されない範囲が拡大している。こうしたなかで、昨今の一連の週刊誌報道をうしろや新聞も後追いし、国会でも記事

正当な取材行為を
めぐる事案

- 1978・5 沖縄返還密約をめぐる外務省秘密漏洩事件で、最高裁は「取材対象者の人格を著しく蹂躪した取材行為は、正当な取材活動の範囲を逸脱するものである」と判示
- 1986・1 脳梗塞で倒れ容体が不明だった田中角栄元首相の車椅子姿を、毎日新聞が上空から撮影
- 2007・2 フジテレビが新潟県長岡市の田中直紀選挙事務所を民家から盗撮したことに対し、新潟地裁長岡支部は「目的自体は不当ではないが、正当な取材範囲を超えている」と判示
- 2013・12 特定秘密保護法22条②「出版又は報道の業務に従事する者の取材行為については、専ら公益を図る目的を有し、かつ、法令違反は著しく不当な方法によるものと認められない限りは、これを正当な業務による行為とするものとする」

内容をもとに質疑が行われるなど、一気に「正当」の範囲が拡張したともいえる状況だ。報道目的であることを明かさず取材や、身分を偽るなどして相手方をたまためて取材する行為、あるいはその約束をするなどは、報道倫理上好ましくないし、原則

許されないと考えられている。しかし、他にどう得る手段がない、組織としての了解がある、取材目的が明確である場合など、許されるケースを社会全体で共有することが考えられても可い。

知りえた事実は報道目的のみ使用され、対象は公人性や公益性が明白で、極めて高い事象に限定される。こうした条件がそろつたら、果敢に不正義に立ち向かう勇気と覚悟を報道機関には期待したい。私たちがそれを後押しする必要がある。いまの時代には特に求められている。

(「見張り塔から」は今回で終了します)

太郎の
国際通信



英国のエリザベス女王の従弟の妻に、マリークリスティーン・マイケル・オウ・ケントさんという王族がいる。ドイツオーストリアの貴族の血をひき「英国王室の一員と結婚する者として最も王族らしい人物」と評されている。

その王子の妻が、メイガン・マークルさんで、ケント王子が婚約した直後の二〇一七年十二月に女王が主催したクリスマス昼食会に、マスコミの注目を浴びるアローチを胸に出席した。

を批判する情報が英国のマスコミにまきわした。

「ハリケーン・メイガンが王室をかき回す」(一八年十一月メール紙)

「メイガンのおだ名は難し妃」(一八年十一月エクスプレス紙)

「メイガンは王宮内で憎まれている」(二〇年十月タイムズ紙)

中でも決定的だったのが、一昨年四月にサンデー・タイムズ紙などが「ケント王子夫妻、海外退散」と報じたことだ。

「ケント」の
「ガ」

王室関係者は、ケント王子とメイガン妃がアフリカを中心とした慈善事業などに専念することを計画していると言えた。

ケント王子たちはアフリカでテートをしたのがきっかけで、結婚してこ